

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城西中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	76.7	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	86.2	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	93.1	92.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎多くの生徒が他者の考えを尊重し、協力して課題解決に取り組むことに肯定的で、仲間と協力して学ぶ姿勢が育っています。
◎自分のよさを認識しながら将来を前向きに考える生徒が多いことがうかがえます。

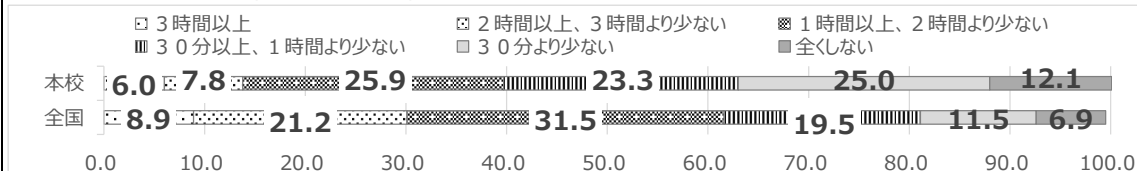
●授業以外の学習時間は「1時間未満」の生徒が比較的多く、継続的な家庭学習の定着には課題が残ります。

●仲間と協力する姿勢は高い一方で、話し合いによって自分の考えを寛容させたり、多様な考えを比較・検討させたりする中で、よりよい結論を導くことが課題です。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	79.3	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.1	79.0

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	85.4	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	72.5	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	83.6	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	91.4	91.0

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎「自分には、よいところがあると思う」の回答が全国平均を上回っており、自分の長所や価値を認識できる生徒が多く、前向きな自己理解が育まれています。

◎学校や、家庭、友人関係の中で、安心感をもちながら生活している生徒が多いことがわかります。

●多くの生徒が学校生活を前向きにとらえている一方で、学校生活に十分な楽しさや充実感を感じられていない生徒も一定数いることから、生徒の居場所づくりが必要になります。

●学習面では、家庭学習時間の確保に課題が見られ、主体的に学ぶ姿勢をさらに学習習慣の定着につなげていく必要があります。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.7	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	73.3	72.3

調査結果を受けて

【学校では】

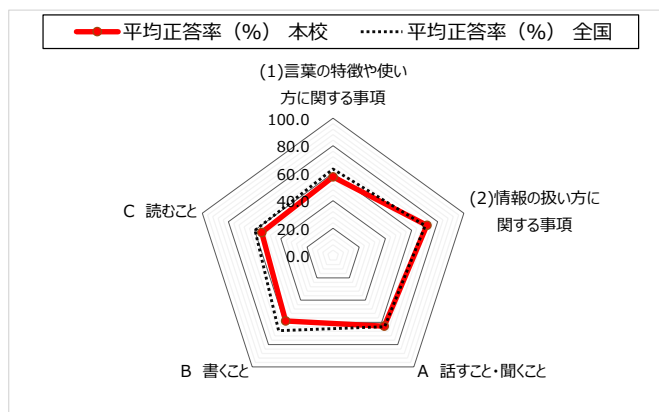
- 授業では、自分の考えを説明したり、友達との考えを比較したりしながら学びを深める活動を充実させます。多様な考えに触れ、自分の考えを見直したり広げたりする経験を積み重ねることで、対話を通して学ぶ力の向上を図ります。
- 結果だけでなく、課題に向かって考え続けたことや仲間と協働して解決しようとした過程を大切にして、生徒自身が成長を実感できるようにします。

【ご家庭では】

- 学習の結果だけでなく、「どのように考えたか」「どのようなことに挑戦したか」といった学習の過程についても話題にいただき、お子様の努力や成長を認め励ましていただきたいと思います。
- 学校での学びや友達との話し合いの様子、将来の夢や目標について会話する機会を設けていただくことで、学習への意欲や自己肯定感の向上につながります。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	57.3	63.0
	(2)情報の扱い方に 関する事項	71.7	70.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	63.4	63.9
	B 書くこと	58.7	67.4
	C 読むこと	54.6	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	68.9	72.7
短答式	48.7	55.8
記述式	40.7	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ 必要な情報を整理し、複数の情報の関係を捉える力が身についています。
- ◎ 表現の工夫によって伝わる印象や効果を考える力が身についています。
- 文章の内容や表現の効果を読み取り、その意味を考察する力に課題があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3二	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	85.8	92.3
1一	助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる	83.2	84.3

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4一	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる。	26.5	35.2
4四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	28.3	38.9

調査結果を受けて

【学校では】

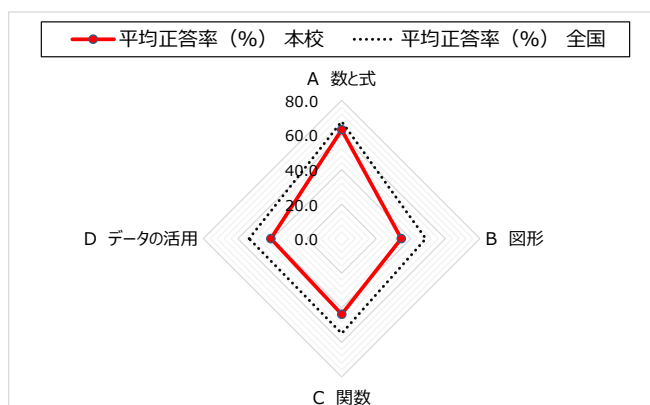
- 語句の表現に着目しながら文章の内容を正確に読み取る活動を充実させるとともに、文章を根拠にして、自分の考えを表現する学習に継続して取り組みます。
- 語彙の意味や表現の効果について考える学習活動を充実させ、根拠を明確にして、記述する力の育成に努めます。

【ご家庭では】

- 読書や新聞、ニュースなどに触れる機会を設け、文章を読むづくりへのご協力をよろしくお願いいたします。
- 学校で学習した内容について、「どうしてそう考えたのか」「どこが根拠になるのか」などを話題にいただき、考えを言葉で説明する機会を増やしていただければ幸いです。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	63.0	67.8
B 図形	34.5	48.7
C 関数	43.7	54.8
D データの活用	40.9	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	49.6	59.3
短答式	55.1	64.2
記述式	25.9	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「数や式」に関する知識・技能については概ね定着しています。

●図形の性質を根拠として説明したり、証明したりする力に課題が見られます。また、表やグラフから読み取った情報を活用し、説明する力に課題があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかみる	84.1	85.7
2	同類項の意味を理解しているかどうかをみる	71.7	70.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
7(2)	数学的に表現したことの事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	20.4	33.9
9(3)	データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができる	20.4	31.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 対話を通して、お互いの考えを出し合い、認めながら、考えを整理したり、広げたり、踏まえたりする場面を設定します。
- 基礎的な知識・技能を用いて答える力については、日々個々のつまづきに応じた指導を行い、学力向上に努めます。
- 数学的に表現したことを根拠として、自分の考えを問題解決の方法を説明する活動を授業に位置づけ、「なぜそうなるのか」を道筋を立てて表現する力を育てます。

【ご家庭では】

- 学校で使用しているワーク（数学の問題ノート）やプリント等の宿題の取り組み状況やテストの結果をご覧になって、学習内容を家庭内での話題にし、家庭学習につなげてください。教科書を使いながら、毎日コツコツ復習していくことをお勧めします。
- 学習内容の理解を深めるために、同一問題や類似問題、さらには発展的な問題に取り組んでいくことも大切です。その際は、ワーク掲載のC問題～実力を試そう～をご活用ください。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	459
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1 / 2	2.1 / 5	0.5 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
2	聞くこと	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
6	読むこと	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけているかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
18	話すこと〔発表〕	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる
19	話すこと〔発表〕	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる

結果 ※◎（強み）、●課題

◎「聞くこと」に関しては、全国平均との差は小さく、英語を聞いて、必要な情報を捉える力は比較的身についています。また、「読むこと」に関して、必要な情報を探して読み取る問題では比較的良好な結果で、日常的な英語を読み取る基礎的な力は身についています。「話すこと」に関しては、身近な話題について英語で伝えようとする場面が見られます。

●「書くこと」では、読んだり聞いたりした内容を基に、自分の考えや理由を英語で表現する力に課題が見られます。また、「読むこと」に関して、文章を読んで内容を理解するのではなく、それを基に自分の考えを表現する力が必要になります。「話すこと」に関しては、聞いた内容を踏まえて自分の考えや理由を整理し、まとまりのある内容を英語で話す力に課題が見られます。

調査結果を受けて

【学校では】

- スモールトークやペア活動、英文を聞いたり読んだりする活動を通して、内容や要点を整理し、それをもとに自分の考えを話したり書いたりする場面を設定します。
- ワークシートや単元テスト等を活用して生徒のつまづきを把握し、「聞いたこと・読んだことを整理する」「自分の考えを理由とともに表現する」活動を充実させ、個に応じた指導を行います。

【ご家庭では】

- 教科書やまナビシステムのワーク3種類を家庭学習に活用し、単元テストや実力テストで間違えた問題を確認したり、練習問題に繰り返し取り組んだりするなど、学習内容の復習をお願いします。
- 教科書やワークに取り組む際には、内容を理解するだけでなく、「自分はどう思うか」「なぜそう思うか」を考えることを意識し、学習した英語を使って自分の考えを書く練習にも取り組んでください。